氷　の　山

――県下主要植物採集地案内（6）――

岩　谷　成　彦

概　要

氷の山は、海抜1,510.1メートルで兵庫県最高の山である。兵庫県養父郡関宮町、大屋町、宍粟郡波賀町、鳥取県八頭郡若桜町にまたがり、兵庫県と鳥取県との県境、昔風に言えば但馬、播磨、因幡国境に聳える山である。

地理調査所発行5万分の1の地形図「村岡」の1,510.1メートルの三角点には、須賀の山、1,252メートルの所に氷の山越、そのすぐ上、赤倉頭と呼ばれる所に氷の山と記載されているので、県下最高の1,510.1メートルの山名について混乱を生じている。ヒョウのヤマ、ヒョウのセン、須賀(スガ)の山(セン)、四箇(シカ)の山(セン)、赤倉の頭、または単にセン等いろいろの名で呼ばれているが、大体ヒョウのセンに落着いてきているので、本文もそれによった。（これについて、文献にあげた神戸山岳会編・発行の「但馬をめぐる山々」の中に詳しい論文がのせられている。）

氷の山は、海食準平原が隆起した但馬高原の上に、岩しょうが噴出して出来た安山岩よりなる火山である。その谷は、谷底浸食が盛んで、川底及び岩盤を削り、大小の滝や滑床をつらね、著しく若返りつつあるが、進行は上まで及ばないので、頂上一帯はなだらかな傾斜をもっている。このため、冬季は山岳スーキを楽しませてくれている。

この山の植物について特色を述べると、第一に自然林が所々残っており、そこには、第一層にブナ、ハウチワカエデ、第二層にチシマザサ、第三層にヒメモチ、エゾユズリハ、ハイイヌガヤがある日本海型のブナ原始林の典型的な状態が見られることである。

第二に尾瀬沼のように北方に行かねば見られぬ高山性の湿原が、この山で見られることである。近畿地方では滋賀県の比良山にあるが、この氷の山より西の中国山地では見られない。すなわちその西限である。

その上、中心部はミズゴケとスゲとが結びつくという典型的な形をしているが、周辺部は南にあるためと、1,500メートルの高さにあるということで、大分変化した型となっていて興味深い。

ここで見られるヤチスゲは、その分布の西限といわれている。

第三に植物の分布から見た場合、北方型要素と言われる亜寒帯の植物が多い点が注目されている。

例えば、亜高山針葉樹林の指標植物とされているオオカニコオモリや、北方型植物の典型的なものとされているツマトリソウ（四国の石槌山が南限であるが、大山とともにこの山が西限とされている）。高山でハイマツの下に出てくるといわれるコケモモ、アカモノ、その他、シラネセンキュウ、バイケイソウ、エンレイソウ、マイヅルソウ、ツバメオモト、ツクバネソウ、サンカヨウ、ダイセンキャラボク、羊歯植物としては、シラベやオオシラビソ等、亜高山性森林の下に出てくるというシラネワラビ等が見られることである。

何故このような亜寒帯の植物が多いか、地質学的にも研究されねばならない。

また、先にのべたようにヤチスゲは西限であるが、分布上東限ともなっているものもある。

例えば、大陸から九州、中国にかけて分布しているチョウセンシモツケの場合である。

このように非常に興味ある山で、兵庫県内の植物研究を行なう場合、是非一度は調査せねばならぬ山である。

登山コース

植物採集のため登るコースとしては、大きくわけると次のように3つにわけられる。

1. 鳥取県側・春米(ツクヨネ)部落より登るコース。これは、さらに2つのコースにわけられる。
2. 兵庫県側・但馬コース
   養父郡関宮町福定部落より登るコースであるが、これは、さらに氷の山越コースと東尾根コースにわけられる。高さにして1,000メートル、距離で5キロ、時間として3時間乃至4時間のコースである。
3. 兵庫県側・戸倉コース
   播磨側揖保川の源、宍粟郡波賀町戸倉峠附近より登るコースで、最近夏山道が開拓された。

1. 春米コース

鳥取県側春米部落に出るには、鳥取駅より、若桜(ワカサ)行の列車に乗る。約70分程で終点若桜につく。駅を少し出て街道から茗荷谷行の日の丸バスに乗る。約30分程で点終

につく。終点から約30分程ゆるやかな登り道を行くと春米部落につく。

春米部落の外れの神社を出ると、道はすぐ2つに分れ「左氷の山登山道」の道標がある。道標どおり左へ行くのが古い登山道である。

① 左手に一たん川を渡り、水田の中の道を桑が屹(タワ)の方に向ってゆく。やがてその道とわかれると、ゆるやかな草地で、また道は2つにわかれるが、杉林の中で一緒になる。左へ分岐する道は木馬道で、これは赤倉山の崖の下を通るので時間がかかる。杉林の中を過ぎると、もと木原八丁と呼ばれていたブナの大木の伐採地があり、これを登りきると氷の山越につく。ここで、但馬側よりの氷の山越コースに合う。

茗荷谷 —30分→ 春米 —120分→ 氷の山越 —50分→ 頂上

② 春米の神社上手の分岐点より段々畠を登り杉林の中を真すぐにゆく。杉林をぬけた処でワサビ谷にかかる橋を渡る。広々とした草原がありスキー小屋がある。スキー小屋の下で林道とわかれ小道を登る。この付近一帯は冬はスキー場となり、上の広い台地は「高天が原」と呼ぶ人がある。草原で中央の杉のある凹地には泉が湧いており、対岸のシャムカとともに夏はキャンプ場となっている。スキー場を通ってゆるやかに登ってゆくと、眼前にブナがよく繁った山がおおいかぶさるように近づき、知らず知らずに大倉谷にみちびかれ、小道は深い森林へ入ってゆく。やがて大倉谷を横切って、頂上からスキー場に落込んでいる支流のセン谷に入る。昼なお暗いブナ等の原始林である。雪崩による倒木や露出した岩の上をゆく快適な登りである。やがて「ノド」と呼ばれる両側より岩のせばまった処に出る。ここで道は2つに分れる。右は大倉谷の頭を通ってチシマザサの中を南側から頂上へ登るコースである。左はブナ林の急坂を登りコシキ岩の下に出て、氷の山越コースの尾根に合うコースである。どちらも同じ位の時間である。

春米 —20分→ スキー場 —60分→ ノド —60分→ 頂上

2. 但馬コース

兵庫県側・但馬コースの基点、福定部落に出るには、山陰線八鹿駅前より全但バス丹戸行に乗る。約70分程で終点丹戸につく。ここより奈良尾をとおり約15分坂道を登ると福定である。

① 氷の山越コース

福定より八木川の源流に沿って水田の中の道を進むと川原に出る。少しゆくとダムがあり、最初の滝が左に見えるところで川を渡る。

オニグルミ、キハダ、キカラスウリ、クサボタン、ハスノハイチゴ、川原にはネコヤナギ。

川を渡って川原をゆくと、遭難碑がある。これより右布滝の谷、左不動滝の谷の2つの谷をわける尾根をジグザグとまがりながら登る道となる。48曲りと呼ばれる坂道で雑木林である。フサザクラ、ウワミズザクラ、カスミザクラ、ナツツバキ、ダンコオバイ、タニウツギ。

まもなく ブナ帯の下限林に入る。このあたりがアズキコロガシと呼ばれる急坂である。ソヨゴ、ハイイヌガヤ、オオイワカガミ、トキワイカリソウ、ホツツジ、ギンリョウソウ。

スギの植林地に入ると間もなく地蔵堂につく。海抜960メートルのこの付近は、1948.8.30 オオダイトウヒレンを採った頃に比べるとすっかり変って、植えてからあまり年数のたっていないスギの植林地となっている。

これよりはブナ、ミズナラの温帯森林の中の登り道であるが、上にゆくにしたがってササが多くなり背も高くなってくる。ミヤマニガウリ、オオモミジガサ、エゾアジサイ、ウチワドコロ、ミヤマガンクビソウ、ワセグミ、ミツモトソウ、クロバナヒキオコシ、オオハナウド。

途中、弘法の水と呼ばルる水場があり、キツリフネ、メタカラコウ、ヤグソマソウ、イヌガンソク、ギンバイソウ、ジヤコオソウ、ヤマタイミンガサ等が見られる。

ササをわけてゆくと、県下で最も高い峠である氷の山越につく。海抜1,252メートルである。ここで春米からの道と合う。この峠の兵庫県側はチシマザサ、鳥取県側はヤネフキザサが生えている。

これより頂上までは、県境の尾根道で、鳥取県側は第二層をチシマザサとするブナの原始林であるが、兵庫県側は、第二層のチシマザサを薬品で枯らして焼き、その跡にスギを植えている。コミネカエデ、クロヅル、オオバヨツバムグラ、マイヅルソウ、シラネワラビ、オオバシヨリマ、ヒメスギラン、カラクサシダ、ハスノハイチゴ、ミヤマタニタデ、ウスギヨウラク、白花ショウジョウバカマ、シナノキ、コシアブラ、ヒメアオキ、ヒメモチ、エゾユヅリハ、ヤマソテツ、コバノイシカグマ、ダイセンキヤラボク等、ブナにミヤマノキシノブがついている。

途中にあるコシキ岩は、亜寒帯の植物が多く見られる所である。オオジンヨウイチヤクソウ、イワキンバイ、チョウセンシモツケ、コケモモ、コメバツガザクラ、ミヤマアキノキリンソウ、イワカガミ、クロゴケ、タカネシモフリゴケ。

ササの背が低くなると間もなく頂上である。コシキ岩の下で、鳥取側コースのセン谷コースと一緒になる。

福定 —50分→ 滝の下 —50分→ 地蔵堂 —60分→ 氷の山越 —50分→ 頂上。

② 東尾根コース

福定部落のはずれより、下におり、八木川の源流を渡り、段々になった水田の中を登ってゆく。オタカラコ

ウ、ツツナガヤイトバナ、コオニツユクサ、ツユクサ、クサボタン、ダイセンヤナギ、キツネヤナギ、カラフトヤナギ、ヤマハギ、ツクシハギ、クジャクシダが多い。

左側八木川の支流に、オニグルミ、サワグルミ、キヌヤナギ、カツラが特有の樹型をして生えている。水田がつきると、コリヤナギの栽培地となる。コリヤナギは普通のもの、葉のより細いもの、葉の短かいものと3種に区別され、葉の細いものが、やわらかいので最もよいものとされている。ヤマチドメ、オオバギボウシ、クロバナヒキオコシ、ヤグルマソウ、ヤネフキザサ。

海抜850メートル付近でコリヤナギの畠がつき杉林の中に入る。ジグザグの苦しい登りである。チシマザサ、アマヅル、ヤマソテツ、ミヤマハハソ、ハシバミ、モミジドコロ、オオミゾソバ、トキワイカリソウ。

スギの植林がつき、カスミザクラ、ヨグソミネバリ、ウワミズザクラ、ノリウツギ、アズキナシ、タムシバ、ナナカマド、クマシデ、ヤマボウシ等の林となり、次第に東尾根に出る。

東尾根は所々ブナ、ミズナラの大木が残っているが、大体チシマザサが多い道である。但馬牛の背のように長い長いゆるやかな登り道である。

ササの中で、オオイワカガミ、ミヤマシグレ、コバノイシカグマ、ツルシキミ、クロヅル、ミヤマフユイチゴ、ヤマブドウ、ヒメユヅリハ、ヒメモチ、アオダモ、ナツツバキ、ホツツジ等がみられる。

水の多い所では、サワグルミ、トチノキ、ミズキがあり、その下には、キツリフネ、ヤグルマソウ、ヤマタイミンガサ、コチャルメルソウ、サラシナショウマ、ヤマドリゼンマイ、リョウメンシダ、ヤマソテツが見られる。

2つ程小川をわたってゆき、ササの背が低くなり、オオバニガイチゴ、ハスノハイチゴが出てくると、間もなく神戸大学のヒユッテがある。ヒユッテ付近はブナの原始林で、道から少しはずれた所に水場もある。

このブナ林は、120年位のブナよりなり、下はチシマザサが生えている。ブナ林の上の方は、スギ林となっている。その下にミズゴケの群落もあり、ミヤマタニタデ、ユキザサ、ツノハシバミ、エンレイソウ、ツクバネソウもみられる。ブナには、ヤシャビシャクが生えていることもある。この原始林を千本杉と呼んでいる。

道はまた、背より高いササをかきわけてゆく登り道となる。所々ブナ、スギの大木が立っている。道に沿ってエゾユヅリハ、コバノイシカグマ、ミヤマシグレ、サワアジサイがみられる。

ササの背が低くなったと思うと、眼前にコセイ沼があらわれる。コセイ沼の真中をとおってササの中を少し登れば頂上である。

福定 $\xrightarrow{60分}$ 大谷 $\xrightarrow{120分}$ 千本杉 $\xrightarrow{50分}$ 頂上

3. 戸倉コース

姫路より山崎まで神姫バス、山崎よりさらに戸倉行のバスにのりついで、約3時間余りで宍粟郡最奥の戸倉部落につく。

このコースは、37年7月にはじめて開かれたコースなのであまり知られていないコースである。

戸倉部落から戸倉峠への国道を約30分行くと、営林署の小屋のある坂の谷と畑が谷の合流点に出る。これからさらに峠の方に5分ばかり登ると、右手に坂の谷本谷にはいる立派な林道がある。この坂の谷国有林に通ずる林道を登ってゆくと、林道のつきる付近、左岸に羊の滝とよばれる約40メートル位の滝が見られる。この付近より、ヒノキ林と伐採跡地の境界を右岸の国境尾根側に登ると古い軌道跡に出る。これに沿って流れを右にみて遡ると本流に出合う。この附近から左岸に渡り尾根道の切開きに従って登ると、戸倉の避難小屋の約400メートル上手に出る。ここからもやはり切開きに従って一路登れば、二の丸頂上につく。二の丸から頂上までも稜線通しの良い切開き道である。

戸倉 $\xrightarrow{30分}$ 坂の谷分岐点 $\xrightarrow{80分}$ 羊の滝 $\xrightarrow{120分}$ 二の丸 $\xrightarrow{50分}$ 頂上

4. 頂上付近

一等三角点（1,510.1メートル）の櫓、豊岡測候所の無人気象観測所、尼高ヒユッテ等がある。

兵庫県最高の山だけあって眺望は素晴らしい。

頂上一帯は、チシマザサが優占し、被度5。それにブナ、マルバマンサク、ノリウツギ等が低木状をなして混生している。この他、ヨツバヒヨドリ、ダイセンヤナギ、オオバニガイチゴも見られる。

コセイ沼は、牧野博士が命名された湿原である。

周辺は野生のスギの古木がかなり広い場所を優占している。丈は低く、幹は地に臥しているものもある。チシマザサも入り、低木では、ホツツジ、イヌツゲ、クロミウスノキ、フウリンウメモドキ、クロソヨゴ、ハシバミなどが混っている。その他赤い実のアカモノ、イワナシ、オヤマリンドウ、モウセンゴケ、ツマトリソウ、マイヅルソウ、バイケイソウ、コバノトンボソウ、キソチドリ、ヤマドリゼンマイ、マンネンスギ、ヤチスゲ、コイヌノハナヒゲも見られる。ミズゴケは2種類もある。杖をつきさしても1メートル位は簡単に入る柔さである。

宿泊設備

但馬コースの基点となる福定をはじめ、ハチ高原、鉢伏山登山の基地大久保等の各部落にはスキー宿があり夏も泊めてくれる。またユースホステルもある。

戸倉コースの戸倉部落には、戸倉山荘をはじめスキー宿がある。

文　献

小早川利次・石川栄之助：但馬氷の山・妙見山採集目録（謄）　1—11（1937）

松本義一：但馬氷の山・鉢伏山植物採集記　兵庫博，14；104～107（1937）

1937年8月8日・9日に行なわれた牧野富太郎博士指導の採集会の記録。

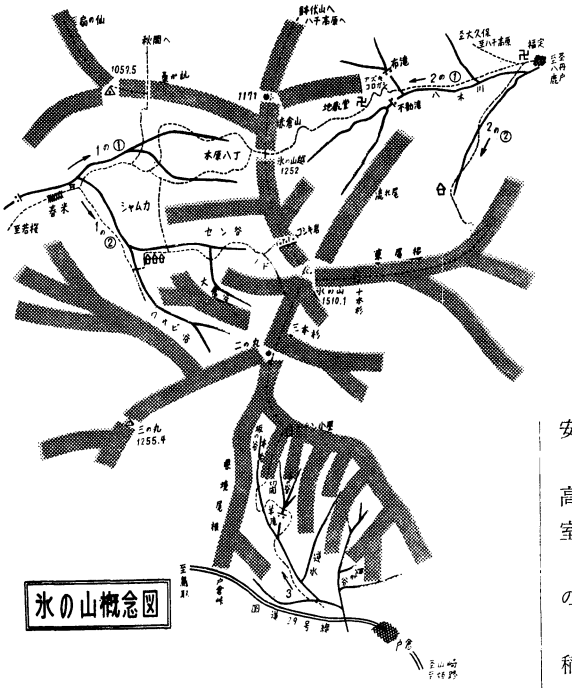
8月8日、福定（6時出発）——地蔵堂（9時半）——氷の山越（11時半・昼食）——頂上（2時半着）

氷の山越——頂上の尾根で、牧野博士「ヒョウノセンカタバミ」を発見し命名。

1,100メートルの辺に自生しているダイセンキャラボクの根本のまわりを計ったところ1.5メートル、高さ2.45メートルあった。さらに200～300メートル上にも同大のものがあり、前後3本程見つかった。

頂上付近の沼に牧野博士はコセイ沼と命名。

同じコースをひきかえす。



地　図

5万分の1

若桜、村岡、大屋市場、坂根

大部分は村岡に収められており、但馬コースは大体これで分るが、戸倉コースの場合は、大屋市場、鳥取側コースには、若桜が必要である。

8月9日

鉢伏山採集

参加者70名

兵庫県博物学会：氷の山植物目録　兵庫博15；157～162（1938）

前記採集会による植物目録で86科327種が記載されている。

本目録は「丹後・但馬・因幡海岸地方の自然科学的考察」(1950) 157～161にも掲載されている。

川中菊市：但馬氷の山植物採集記　植物趣味Ⅶ；9～12（1938）

前記採集会に参加した記録。

北村四郎：会報　植物分類地理 XIV（1952）

北村四郎：妙見山・氷の山の植物　兵庫生物Ⅱ；119～120（1953）

上記の二文は同一のもので、1952年8月9日～11日、植物分類地理学会と県生物学会と共催、京大植物学教育指導の採集会記録。

8月11日、福定——地蔵堂——氷の山越——頂上のコースで頂上に至り、コセイ沼を調査し、同じコースをひきかえしている。

田口美智太郎：但馬植物分布調　兵庫教育第480号（1929）

本文は「丹後・但馬・因幡海岸地方の自然科学的考察」(1950) にも、同氏編「但馬植物目録」とともに収録されている。

中村博兆：氷の山採集記　但馬自然界 No.2（1947）

上田喜久雄：氷の山附近の植物　兎塚中学校（1949）

中村　晃：氷の山採集記　但馬の生物；83～86（1949）

井上三義　但馬氷の山の植物　Natura No.16（1959）

室井　綽：氷の山の植物についての新知見　但馬の生物（1956）

安田　憲　氷の山産地衣類知見　鳥城（鳥取一中校友会誌）第52号；49～62

高橋　勝：氷の山産菌類目録　生物の研究1—2（1932）

室井・岡村：兵庫県植物分布概説　兵庫生物Ⅳ 1～9（1960）

のじぎく文庫　兵庫の自然；133～135（1960）

筆者は、安木五夫・奥谷禎一

稲田又男：兵庫県羊歯植物誌（1958）

伊藤洋博士のシダ植物分布型Eに相当する地帯を有する山としている。

岩田・奥谷・永富・中根：氷の山の昆虫　兵庫生物Ⅱ；121～125（1953）

山本広一：但馬氷の山夏の蝶　〃　Ⅲ；22～26（1955）

山本義丸：氷の山の蝶類について（1，2，3，4）　〃　Ⅲ；3，121，237，383

（以下p. 68へ）

（以下 p. 18より）

吉阪道雄：氷の山の蝶類（1，2）　〃　Ⅲ’27，124
森　為三　円山川上流氷の山山麓採集魚類に就て
〃　Ⅱ；126～127（1953）
西村　登：氷の山渓谷の水生昆虫
〃　Ⅲ　339～341（1954）
豊岡高校生物部：氷の山系植物・昆虫目録（但馬山岳博物館資料）1964.8.氷の山採集会参加者に配布したもの

山岳文献：
マウンテン、ガイドブック、シリーズ44
中国の山と谷　52～54　朋文堂発行
須賀ノ仙の名で出ており鳥取側よりの案内が詳しい
大阪周辺の山々　70～72　朋文堂発行
須賀ノ仙の名で出ており鳥取側より登り東尾根を下り八鹿に出るコースを紹介。9K・4時間55分の歩程としている。
神戸山岳会編・発行
但馬をめぐる山々84～86，89～91（1962）積雪期と無雪期の登山コースが書かれている。無雪期として鳥取側（春米、セン谷）兵庫側（氷の山越、東尾根コースの外に戸倉側からのコースが出ている。戸倉側コースとしては、唯一の文献である。
89～91に「氷の山の呼称について」の考察がのせられている。

第19回生物学会総会ご案内

昭和40年度、第19回総会は来る5月30日（日）、31日（月）に行なわれる。

場　所：西脇市県立西脇高校講堂

1日めは講演会、研究発表、森博士生物研究奨励金授与、協議：20周年記念に関する件（会場、日時、展覧会、記念品、兵庫生物特集号発行、20周年勤続者表彰）、本夏行事の件（富士箱根山採集会と奥谷国林の採集会）

第2日めは場所未定、付近ウバメガシ林の見学と採集の会。

なお、研究発表希望の方は県立西脇高校生物室平田忠夫先生あて5月5日までに申込むこと。

この詳しい案内状は4月中旬に、改めて発送する（室井綽）。